

# 日本近代文学館

題字・高見順

No.281  
2018.1.1

島崎藤村「ある女の生涯」、  
太宰治「斜陽」原稿など受贈へ

新潮社元会長・佐藤俊夫氏の旧蔵資料から、太宰治「斜陽」など原稿および書簡が、近いうちに寄贈となる運びとなつた。

明けましておめでとうございます。

談をしていただき収録してきた。

本年は開館五十一年目を迎えて、これを機にさらに貢献型の事業に入れて行くことになった。全国の文学館の方々にお会いする機会が多いが、五年を期して変ってきたこと、「教科書のなかの文学」の試みや「文学館演習」などが学校教育や社会人教育のための貢献になること、また当館が事務局をつとめる全国文学館

議会での情報交換に感謝していることを伝えて下さる。

しかし、これらの動きは、今に始まつたことではない。約二十年前の一九九五年、中村稔現名譽館長のもとで発足した館「未来構想委員会」によつて、豊かな発想、たくさんの文学館事業改革の道がうごき出したのである。

その中の一つに「声のライブラリー」がある。一九九五年にはじまって、昨年までで九十一回、二百四十六名の文学者に、自作朗読と創作についての対

協議会での情報交換

を機にさらに貢献型の事業に入れ

□ 駒場ノート 39  
朗読空間の楽しみ

坂上 弘

こうして原稿用紙

に感謝していること  
を伝えて下さる。

しかし、これらの動きは、今に始まつたことではない。約二十年前の一九九五年、中村稔現名譽館長のもとで発足した館「未来構想委員会」によつて、豊かな発想、たくさんの文学館事業改

革の道がうごき出したのである。

その中の一つに「声のライブラリー」がある。一九九五年にはじまって、昨年までで九十一回、二百四十六名の文学者に、自作朗読と創作についての対

協議会での情報交換に感謝していることを伝えて下さる。

しかし、これらの動きは、今に始まつたことではない。約二十年前の一九九五年、中村稔現名譽館長のもとで発足した館「未来構想委員会」によつて、豊かな発想、たくさんの文学館事業改

革の道がうごき出したのである。

その中の一つに「声のライブラリー」がある。一九九五年にはじまって、昨年までで九十一回、二百四十六名の文学者に、自作朗読と創作についての対

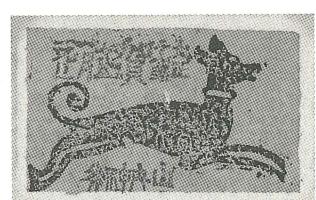
協議会での情報交換に感謝していることを伝えて下さる。

しかし、これらの動きは、今に始まつたことではない。約二十年前の一九九五年、中村稔現名譽館長のもとで発足した館「未来構想委員会」によつて、豊かな発想、たくさんの文学館事業改

革の道がうごき出したのである。

その中の一つに「声のライブラリー」がある。一九九五年にはじまって、昨年までで九十一回、二百四十六名の文学者に、自作朗読と創作についての対

今月の一枚



山内神斧の年賀状 大道弘雄宛

駒場ノート 朗読空間の楽しみ	坂上 弘
文学の風景 古本屋の読書	宇田 智子
わたしの蔵書から 濃密な言葉の魔力—蜂飼耳『顔をあらう水』	原 武史
リトルマガジンは今 「ぼかん」エイヤッという気持ち	彩 真治
視点—文学と美術 装幀家としての杉浦非水	前村 文博
所蔵資料紹介 加藤楸邨の筆墨資料	
駒場の四季 2017年度の文学館演習	
図書・資料入れ報告	
所蔵資料研究—作家の手紙 二葉亭四迷関連書簡から	十川 信介